

やっとかめの名古屋城

天守閣の木造化問題が市長選の争点の一つにもなっている名古屋城を久しぶりにじっくりと見て回ろう！という、健脚家にはちょっと物足りない踏査会です。

1. 日時 2017年6月10日(土) 13:30~16:30
2. 場所 名古屋城およびその周辺
3. 行程

13:30 名古屋市営地下鉄(名城線)市役所駅改札口集合

【名古屋城周辺】

名古屋城を外から見てみよう！ということで、入場せずにぐるりと一周します。

【東門から入場】

大人500円(団体は30人以上のため各自でチケット購入)

(名古屋市在住の65歳以上の方は100円。免許証等提示の要有)

【二之丸】

当時は藩主の居住施設兼藩政の執務場所として立派な御殿がありましたが、明治に入って陸軍の駐屯地施設を作るため全て撤去されてしまい、現在は二ノ丸庭園として再整備が進められています。

- ・埋門(うずみもん)跡:藩主非常時脱出口。舟で堀を渡り、御土居下同心(極秘任務)の忍籠に乗って木曾に向かう。
- ・「王命に依って催さるる事(軍)」の碑:初代藩主徳川義直が勤王の精神について述べた(『軍書合鑑』)もので藩訓とされてきた。
- ・「青松葉事件之遺跡」碑:1868年「朝命により」と称して重臣3名ら計14名が斬首された。→城山三郎『冬の派閥』
- ・「(加藤)清正公石曳きの像」

【本丸】

- ・本丸御殿・1615年ころ完成し初代藩主義直が結婚と同時に入居したが、1620年二ノ丸御殿に移り、その後1633年將軍上洛時の宿泊施設として改築。ただし改築後は家光が上洛時に一度使っただけ。
入場無料。靴を脱いで上がる→靴箱有。手荷物用無料ロッカー有。
- ・天守閣・木造化される方向。ただし完成時期は意見対立。
建築資材=檜角材2085本、樺角材408本、松角材9796本、畳1759。
石垣は加藤清正が担当、独自の石積み法(『秘伝之書』)

→4/16NHKスペシャル『熊本城再建』～地震耐えた石垣の秘密～

【御深井丸おふけまる】・・・火薬などの貯蔵施設が置かれていた。

- ・乃木倉庫・・・戦時中、本丸の障壁面を一時保管し、戦禍を免れた。
- ・西北隅櫓・・・清州櫓とも。入場はできない。外から観るだけ。

【西之丸】・・・食糧庫などが置かれていた。

- ・西ノ丸展示館
- ・榎（かや）の木・・・推定樹齢600年

【参考】名古屋城の歴史

1600年（慶長 5） 関ヶ原の戦い

1609年（慶長 14） 家康、清州から名古屋へ遷府を決定、名古屋城築城を命ずる。

1610年（慶長 15） 縄張決定→石垣など土木工事年内にはほぼ完了。

1612年（慶長 17） 本丸御殿着工。

天守閣竣工し、名古屋城ほぼ完成。

1752年（宝暦 2） 天守閣の大修理に着手（石垣一部組み換え）→1755年竣工

1875年（明治 8） 本丸・二之丸全域が陸軍省の所管に。

1891年（明治 24） 濃尾大地震により多くの建物が被災。

1893年（明治 26） 陸軍省から宮内省に所管が移る。

1930年（昭和 5） 宮内省から名古屋市に下賜。

1945年（昭和 20） 名古屋大空襲（5/14）名古屋城焼失。

1957年（昭和 32） 名古屋城再建工事着工。

1959年（昭和 34） 名古屋城再建工事竣工。

1964年（昭和 39） ゴジラが天守閣を破壊（映画『モスラ対ゴジラ』）